

3

診療報告

内

科

診療局長：谷水 将邦

Ⅰ 診療体制

令和6年度は、谷水診療局長、久代主任部長、谷口主任部長、相見部長、嶋崎医長の5名体制で内科の診療に当たりました。

Ⅱ 診療実績

令和6年度の外来延べ患者数は22,983人（前年度23,701人）でした。入院延べ患者数は29,695人（前年度30,491人）で平均在院日数は18.3日（前年度19.9日）でした。

専門外来としては、血液（毎週火・木曜日：木曜日

は岡山大学からの派遣医師）、糖尿病（毎週金曜日）、消化器（毎週火曜日）、腎・代謝（毎週火・木曜日）、内分泌・代謝（毎週金曜日）、消化器センター（毎週月・火・木・金曜日）、漢方外来（毎週木曜日午後）、禁煙外来（毎週木曜日午後）の診察を行ってまいりました。

引き続き、今後も総合診療科の先生方と協力しながら持続可能な内科専門診療を行い、地域に貢献できるようにと考えています。

総 合 診 療 科

診療局長：足立 誠司

Ⅰ 人事

令和6年3月末に池田紗矢医師が異動となり、令和6年4月に杉山華衣医師と奥谷はるか医師が着任し、常勤医として勤務しました。なお、奥谷医師は鳥取大学総合診療医育成プログラムの一環で9月末に小児科へ異動となりました。

Ⅱ 診療実績

令和6年度の外来延べ患者数は2,263人、入院延べ患者数は23,731人であった。

絆ノート届け出新規登録患者は、6件/年であった。

Ⅲ カンファレンス

- ① PBL(Problem Based Learning)：初期研修医を中心に毎週火曜日7:45からカンファレンスを実施
- ② 総合診療科カンファレンス：毎週月、火、木曜日の17:00-18:00に外来、入院患者に関するカンファレンスを実施
- ③ 内科カンファレンス：毎週水曜日17:00-18:00
- ④ 多職種カンファレンス：毎週水曜日14:00-15:00に倫理的な問題で悩ましい症例についてのカンファレンスを実施

Ⅳ 院外活動

市民医療講演会、各依頼講演、診療支援、研修会開催など多数行っている。さらに、行政や医師会をはじめとする各職能団体との交流がさかんになっている。

メンタル・クリニック

診療部総括部長：山根 享

I 人事

山根医師1名体制で診療に当たりました。

II 診療実績

外来診療は、毎週月～金曜日に診察を行っております。

令和6年度の外来延べ患者数は2,448人でした。

メンタルクリニック外来、身体疾患で入院中の患者さんの精神症状に対するリエゾン活動、不隠症状などに対する認知症ケアチーム活動、こころのケアとしての緩和ケアチーム活動などを行いました。院内で開催されている勉強会において、「発達障害」、「LGBTQ+」について講義しました。

循環器内科

診療部主任部長：森谷 尚人

文責 医長：田淵 真基

I 人事

前年度と同様に、森谷尚人部長、田淵真基医長、戸杉夏樹医長の3名体制で診療に当たりました。

II 診療実績

前年度に引き続き月、水、金曜日を外来、火、木曜日を検査・治療日としております。外来は森谷、田淵、戸杉がそれぞれ初診専任と再診専任に分かれて担当しました。

外来患者のべ人数は3,421人、入院患者のべ人数は3,855人、冠動脈CT件数は43件、心臓カテーテル検査数は102件（緊急26件）、経皮的冠動脈形成術/ステント留置術件数は34件（緊急24件）、経皮的末梢血管形成術件数は2件（緊急0件）、ペースメーカー手術件数は11件でした。

令和4年4月より、心臓リハビリテーション指導士による外来心臓リハビリテーションを開始しました。月・水・金曜13-16時に予約制で実施しています。また、令和6年より心臓リハビリテーション実施患者さんを対象に健康作りの取り組みである「ハートウォーク」を行っております。

III カンファレンス

- ①毎週月曜16時より予定心臓カテーテル検査・治療患者に関するカンファレンスを医師・看護師・臨床工学技士で実施
- ②毎週火曜16時より循環器内科カンファレンス（入院・外来患者に関するカンファレンス）を実施
- ③毎週月曜15時より、リハビリテーション実施患者・心不全療養指導対象患者に関して多職種チームによる回診・カンファレンスを実施
- ④月一回心臓サポートチーム（循環器内科医師、総合診療科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士、臨床検査技師、メディカルソーシャルワーカー、臨床心理士）によるカンファレンスを実施

外

科

病院長：大石 正博

Ⅰ 人事

人事面では、大石病院長、小寺診療局長、水野部長、堀部長、宮本医長、松本医長の6人で外科診療を行いました。

Ⅱ 診療実績

外来は、延べ患者数9,791人、一日あたり患者数40.3人でした。入院は、延べ患者数11,469人、一日あ

たり患者数31.4人、平均在院日数14.2日でした。

Ⅲ 手術実績

令和6年1月から12月までの間に、NCD登録431件、そのうち鏡視下手術が219件でした（表1）。

Ⅳ 学会実績

1件の誌上発表、23件の学会発表を行いました（表4、表5）。

表1 消化器手術実績（令和6年1月～12月）

全身麻酔/腰椎麻酔			全身麻酔	鏡視下手術 (全麻の内数)	腰椎麻酔
消化管	食道	悪性腫瘍（頸部）			
		悪性腫瘍（胸部）			
		悪性腫瘍（腹部）			
		良性疾患	1	1	
	胃・十二指腸	胃悪性腫瘍（幽門側胃切除術、PPG）	24	21	
		胃悪性腫瘍（噴門側胃切除術）	1	1	
		胃悪性腫瘍（胃全摘術）	4	2	
		胃悪性腫瘍（胃部分切除術（LECS含む））	1		
		その他	7	3	
	小腸	悪性腫瘍（小腸癌・悪性リンパ腫・GISTなど）	2	2	
		良性疾患（UC・クローンなど）			
	虫垂	虫垂炎	21	21	
		その他（虫垂腫瘍、腹膜儀粘液腫など）	1	1	
	大腸	結腸悪性腫瘍	43	42	
		直腸悪性腫瘍	10	10	
		良性疾患（UC・クローン・憩室炎など）	4	3	
	肛門	悪性腫瘍	2	2	
		良性疾患（痔・直腸脱など）	1		5
	ヘルニア		66	1	5
	その他（癒着性イレウス、ストマ造設など）		52	15	2
肝胆膵	肝・胆	亜区域・区域切除以上（外側区域除く）	13		
		胆道再建を伴う肝切除	2		
		部分、外側区域切除	4		
		良性胆道疾患	94	90	
		その他	3	1	
	膵・十二指腸	膵頭十二指腸切除術（PD）	11		
		膵体尾部切除術（DP）	4	3	
		その他	1		
	脾		0		
	肝胆膵高難度手術（合計）		30	2	
その他（腎移植含む）					
小計			372	219	12
総手術件数（局麻除く）			384		
腹腔鏡総手術件数（局麻除く）				219	
NCD登録症例数（NCD入力締切までに登録予定の症例数を含む）			431		

表2 小児科手術実績（令和6年1月～12月）

全身麻酔/腰椎麻酔		全身麻酔	鏡視下手術 (全麻の内数)	腰椎麻酔
小児	ヘルニア・虫垂炎（16歳未満の手術）	3	2	
	その他	1		
小計		4	2	0
総手術件数（局麻除く）		4		
腹腔鏡総手術件数（局麻除く）			2	

表3 乳腺・内分泌手術実績（令和6年1月～12月）

乳腺悪性腫瘍	乳腺良性腫瘍	甲状腺腫瘍	その他	乳腺内分泌外科手術総数
32	2	1	1	36

表4 誌上発表論文（令和6年度）

論文名	著者	誌名・巻号
直腸癌孤立性横隔膜転移に対して手術が奏功した1例	堀 直人	癌と化学療法.2024;51(13):p1431-1433.

表5 演題発表（令和6年度）

氏名	学会名等	開催日	開催地	演題
大石正博	第124回日本外科学会定期学術集会	R6.4.18 -20	名古屋市	門脈合併切除を行った脾頭十二指腸切除術の短期成績
大石正博	第79回日本消化器外科学会総会	R6.7.17 -19	下関市	大腸癌肝転移切除後においてオキサリプラチンによる術後補助化学療法は再発リスクの高い症例でより有効か？
小寺正人	第32回日本乳癌学会学術総会	R6.7.11 -13	仙台市	葉状腫瘍に対する切除マージンについて
小寺正人	第62回日本癌治療学会学術集会	R6.10.24 -26	福岡市	A case of stage 4 breast cancer in which a complete response was achieved despite immune-related adverse events (irAEs) following multimodality treatment including atezolizumab administratio
水野憲治	第78回鳥取消化器疾患研究会	R6.9	鳥取市	臓器温存の脾切除術
水野憲治	第51回岡山大学肝胆膵疾患研究会	R6.12	高松市	鳥取市立病院における肝門部領域胆管癌治療成績の検討
堀直人	第124回日本外科学会定期学術集会	R6.4.18 -20	常滑市	当院における高齢者大腸癌手術に対する周術期管理の工夫と短期成績
堀直人	第21回山陰内視鏡外科研究会	R6.5.27	松江市	結腸憩室炎に対する待機的腹腔鏡下大腸切除術
堀直人	第37回中国・四国ストーマリハビリテーション研究会	R6.6.15	出雲市	緩和ストーマを造設した52例の検討
堀直人	第46回日本癌局療法研究会	R6.6.21	長浜市	横隔膜転移を含む直腸癌オリゴ転移に対し複数回の手術が奏功した1例
堀直人	第151回山陰外科集談会	R6.6.22	米子市	当院におけるロボット支援結腸切除の導入
堀直人	第79回日本消化器外科学会総会	R6.7.17 -19	下関市	高齢者大腸癌患者に対する手術治療および周術期化学療法の現状

堀直人	第62回日本癌治療学会学術集会	R6.10.24-26	福岡市	大腸悪性狭窄に対する緩和的ステント留置術の治療成績
堀直人	第23回EGI外科治療研究会	R6.11.9	岡山市	結腸から始めるロボット支援下大腸切除術
堀直人	第86回日本臨床外科学会学術集会	R6.11.21-23	宇都宮市	閉塞性大腸癌に対する緩和ステントの有用性の検討
堀直人	第79回日本大腸肛門病学会学術集会	R6.11.29-30	横浜市	狭窄を伴うStageⅣ大腸癌に対する原発巣切除の治療成績
堀直人	第37回日本内視鏡外科学会総会	R6.12.5-7	福岡市	当院における結腸憩室炎に対する待機的腹腔鏡下大腸切除術
宮本耕吉	第37回日本内視鏡外科学会総会	R6.12.5-7	福岡市	当院における腹腔鏡下幽門側胃切除後の体腔内Billroth-I法再建
宮本耕吉	第21回山陰内視鏡外科研究会	R6.5.25	松江市	当院における腹腔鏡下幽門側胃切除後の体腔内Billroth-I法再建
宮本耕吉	第97回日本胃癌学会総会	R7.3.12-14	名古屋市	4型胃癌に対するzolbetuximabの使用経験～副作用とその対策～
松本真実	第151回山陰外科集談会	R6.6.22	米子市	大腸癌の再発と疑われたIgG4関連後腹膜繊維症の1例
松本真実	第37回中国・四国ストーマリハビリテーション研究会	R6.6.15	出雲市	当院で行ったストーマ造設、関連合併症の検討
松本真実	第79回日本消化器外科学会総会	R6.7.17-19	下関市	Two cases of pericececal hernia with different treatment courses

脳 神 経 外 科

診療部主任部長：谷浦 晴二郎

I 人事

令和6年度は谷浦1人で診療を行った。非常勤として、黒崎医師（頭蓋底外科外来）・坂本医師（血管内治療外来）が診療を行った。

II 診療実績

外来診療は月・水・金曜日の1診体制で、頭蓋底外科外来は第1火曜日、血管内治療外科は第4月曜日に診療を行った。

外来延べ患者数1,270人、入院延べ患者数1,520人、手術件数25件（脊椎手術5例含む）であった。

III 学会発表

「鎖骨下動脈盗血症候群を合併した破裂椎骨後下小脳動脈瘤の一例」

谷浦 晴二郎

第31回鳥取県脳神経外科懇話会（2024.7.13／鳥取県）

整 形 外 科

副院長：森下 嗣威
文責 医長：河村 涌志

I 人事（敬称略）

令和6年度は、森下嗣威（S62入局）、根津智史（H24）、河村涌志（H29）、福安悠介（R5）、中河直輝（H31）常勤医5人体制でスタートしました。令和6年10月より根津が慶友整形外科病院へ半年間の国内留学のため異動。同月、岡山大学整形外科での6か月の教育研修プログラムを終えた市場嶺次郎（R5）が復帰しました。

II 診療実績

令和6年度の外来延患者数は13,677人（1日当たりの延患者数56.3人、1日あたり初診患者数7.1人）、入院延患者数は20,939人（1日延患者数57.4人）、平均在院日数20.0日でした。外来延患者数は前年比で1.05倍、入院延患者数は1.05倍となりました。

外来診療は、手術日でも毎日新患者の対応が可能となっております。手術日以外では、再診を含めて3～4診体制で診療を行い、地域の先生方から多くの患者様のご紹介を頂いております。

平日日勤帯の救急患者紹介等につきましては、交代制で救急担当医を割り当て可能な限り受け入れが出来る体制を整え、骨折などの早期加療が必要な患者様に対しても初期対応から手術までの円滑な診療体制を心がけて診療に務めております。

令和5年4月より運用を開始した大腿骨近位部骨折症例に対する骨粗鬆症リエゾンチームですが、整形外科医師・整形外科外来看護師・薬剤師・理学療法士・栄養療法士の各1名がチームとなり術後患者さんのベッドサイドへ骨粗鬆症治療導入開始のため引き続き回診に当たっております。また回復期病院へ転院となった患者さんに対する術後再診の場として毎週木曜日午後に骨粗鬆症外来としての枠を設け、骨粗鬆症治療導入開始から投薬の継続状況、術後ADLや骨塩定量検査による術後経過の調査に合わせまして、新規骨折予防に対するコンプライアンス改善に積極的に取り組んでおります。

III 手術

令和6年度の年間手術件数は871件で、前年比0.93倍でした。

脊椎手術では平成28年より導入したOLIF（腰椎前外側椎体間固定術）も定着し症例数も増加傾向にあります。患者の身体的負担が少ない本アプローチによる椎体間固定により術後早期回復が得られております。

人工関節領域では、人工股関節全置換術（THA）、人工膝関節全置換（TKA）に新たに2台の人工関節ロボットが導入され、これにより症例ごとに異なる適切なインプラント設置位置が術中にリアルタイムで確認でき、更なる治療成績の向上が期待されます。また、逆行性肩関節全置換術（RSA）の使用資格を根津が取得し、当院でも症例に応じてRSA手術を開始しております。

外傷手術では高齢者による脆弱性骨折が中心であるため、麻酔科医や手術室と密な連絡を取り合い、早期手術を継続することが出来ております。これまでは保存治療が選択され、長期臥床が余儀なくされていた仙骨骨折や恥骨骨折などの骨盤輪脆弱性骨折に対しても、ナビゲーションシステムを使用した低侵襲下でのスクリー固定を行うことで早期離床を図るなど新たな試みも開始しています。

IV カンファレンス

毎週水・金曜日の朝7時30分より術前・術後の症例プレゼンテーションを中心に、稀少な症例や治療方針に苦慮する症例などを提示し、整形外科医全員で検討を重ねた上で治療方針を決定しています。

産 婦 人 科

診療部部长：長治 誠

I 人事

令和6年度は長治と非常勤医師の清水（健）、6月までは中嶋の3人で診療を行った。

II 診療実績

6月までは外来診療は水曜日を除き毎日2診体制、月曜日は午後診療も行った。6月以降は毎日1診体制で外来診療を行った。また月曜日、火曜日午後はオンライン診療（情報通信機器を用いたオンライン診療）も行った。

III その他

鳥取県立中央病院、鳥取赤十字病院、開業医とともに、鳥取県東部圏域の産婦人科診療にかかわる意見交換会を、3か月毎に開催している。

IV 学会発表・論文・講演等

<学会発表>

「当院での子宮動脈塞栓術の治療経験」

中嶋真大ほか

令和6年度鳥取産科婦人科学会・鳥取県産婦人科医学会学術講演会（2024.5.26 鳥取県医師会館）

小 児 科

診療部総括部長：長石 純一

I 人事

令和6年3月末で木村昂一郎医師が退任し4月から長石純一医師、奈良井哲医師の常勤医師2名体制で診療を行っています。平成27年度から公認心理師1名も常勤スタッフとして加わっています。

II 診療実績

外来は、延べ患者数3,824人で、午前中は発熱などの一般小児外来を、午後は予約制で予防接種、乳幼児健診、小児内分泌外来（小児糖尿病を含む）、思春期外来（小児心身症を含む）、小児循環器外来（月1回）を行いました。

入院は、延べ患者数665人（1日あたり平均患者数1.8人、平均在院日数4.1日）でした。

発達障がい児及び家族の支援のため、ペアレントメンターに係わる相談事業に参加しています。

引き続き、新生児の育児不安に対する支援事業にも参加しています。

これからも、地域の皆様の信頼を得て、子どもたちに安心して受診していただける小児科になることを目標に、スタッフ一同協力して歩んでまいります。

III 学会発表・講演会等

<長石 純一>

「みんなの心と身体は宝物」

青谷高等学校 公開授業（2024.7.18／鳥取市）

「特別支援教育教職員研修会講義」

青谷高等学校（2024.9.19／鳥取市）

「起立性調節障害についての新しい見方—Deconditioningとの関係も含めて—」

鳥取県東部小児科医会（2024.10.17／鳥取市）

「ライフステージ別の療育指導① -乳幼児・学童・思春期」

令和6年度糖尿病療育指導士講習会（2024.10.20／鳥取市）

「学校は楽しくない」

令和6年度鳥取県医師会 学校医・園医講習会（2025.2.2／倉吉市）

「総合病院小児科での市販薬、処方薬乱用の治療事例について」

令和6年度 鳥取県東部医師会かかりつけ医等依存症対応力向上研修会（2025.3.14／鳥取市）

眼

科

診療部部长：蔵増 亜希子

I 人事

2024年度は蔵増・岡本医員・4月着任の高須医員の3人体制で診療業務を行いました。

II 診療実績

外来診療は月～金の午前中が一般外来、火・木の午後は特殊検査（主に術前検査・IC・小児の診察）、月・水・金の午後に視野検査・網膜電図検査など、昨年度と同様に行いました。

今年度は第3診察室ができ、術後診察の渋滞が緩和されています。

III 手術

月・火・水の午前枠と月・水・金の午後枠で行いましたが、予定手術件数が増加しており、枠もすぐに埋まってしまう。緊急対応などで手術日以外に手術が入ることも多くなっています。年々件数の増えている硝子体注射を今後外来で行うことで手術枠を確保する方針です。

今年度は白内障手術1,028件、緑内障手術96件、硝子体手術80件、眼瞼の手術18件、硝子体注射＋球後

注射886件と手術件数は全て増加しています。

IV 来年度に向けて

来年度からは外来処置室で硝子体内注射・球後注射を行います。空いた手術枠は他の手術に使用できるようになり白内障手術までの待機期間も少し短縮できるかと期待します。

外来が狭いため通路で視力検査を行っていたり、視野検査専用の部屋（暗室）もないため、診察同日に検査ができないなど、まだまだ問題は山積しております。視覚障害に加え足の不自由な患者さんが多く、車椅子での出入りも多くなりますが、すれ違うスペースもなく入退室にも時間がかかります。当然介助も必要となるため人手も必要ですが、どこも人員不足で今のところ仕方ないとのこと。

今後も器械は少しずつコンパクト化し、配置も工夫する等努力しますが、眼科診療は精密器械の性能に頼る部分が大きいので、今後も器械の導入の都度悩むことになると思料します。

皮

膚

科

医員：川本 雅也

I 人事

令和6年度は4月着任の川本が診療を行いました。令和2年度10月より1名体制で診療を行っています。

II 診療実績

外来診療は昨年度と同様に月曜日～金曜日の午前中で行っており、令和6年度の皮膚科外来延べ患者数は3,441人でした。入院延べ患者数は1,396人であり、1日平均入院患者数は3.8人でした。年間手術件数は24件でした。

外来診療では予約患者様を優先して診療し、基本的には他院からの紹介患者様も地域連携を通した予約を取っていただいておりますが、特に当日受診された緊急性の高い患者様をはじめとした当日受診例にも可能な限り対応しております。症状が安定した

軽症患者様はかかりつけ診療所への逆紹介も適宜行い、病診連携を継続いたします。

なお、昨年からの変更点として、アトピー性皮膚炎や蕁麻疹、乾癬に対する生物学的製剤の継続投与を行っているものの、導入を行っておりません。必要時には他院をご紹介し、導入していただいたうえで、当院で処方継続させていただいております。

また、院内では褥瘡対策チームとして皮膚排泄ケア認定看護師と共に褥瘡・スキンケア回診を毎週3日行い、褥瘡対策・治療を行うとともに、その他の挫創等の創傷処置にも力を入れています。

III 来年度の診療体制

令和7年度は引き続き川本が診療を行います。

泌 尿 器 科

診療部主任部長：倉繁 拓志

I 人事

2024年度は、松島が姫路聖マリア病院より着任し、外来診療は倉繁、平田、宗田、松島の4名の常勤医体制であっています。

早田が非常勤として週1回、木曜日午前に外来を担当しています。

II 診療実績

外来診療は基本的に、手術日の木曜日が予約外来のみとなっている以外は、2または3名の医師の診察で積極的に新患を受け入れています。水曜日の午後は女性泌尿器科外来で、女医の松島が第2、第4週を担当、女性患者さんのご希望に沿って診療しております。

III カンファレンス

常勤医4名で、毎週火曜日の午前に行っています。全身麻酔の主たる手術は火曜日、木曜日に予定することが多いために術前カンファレンスはもちろん、治療方針の決定が困難な症例なども提示し、討議しています。

IV 手術

2025年1月に体外衝撃波結石碎石術（ESWL）の最新機種を導入、これまで週2回水曜日と金曜日の午後の手術日を、月曜日の午後も開始し、週3回行っています。新機種により、破碎効率、治療成績が上がり、2024年は87例施行しましたが、2025年は更に症例が増えると予想されます。

月曜日、火曜日、木曜日、金曜日の午後が手術室での手術日で、月曜日は主に前立腺針生検、経尿道的手術などを施行、それ以外の曜日は主に腹腔鏡手術やロボット手術などを行っています。

2022年2月にロボット支援手術を開始し約2年が経過、2024年は67例執刀し、2024年末までに累計173例に達しました。2024年の症例の内訳は、悪性腫瘍の前立腺癌40例、腎癌3例、腎盂尿管癌4例、膀胱癌4例、良性疾患の骨盤臓器脱16例でした。

そのほか、当院の特徴である、レーザーを使用した尿路結石に対する経尿道的結石碎石術（TUL）が130例、前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺レーザー切除術（HoLEP）が49例でした。

表1. 泌尿器科手術統計

	2023年	2024年
総手術件数（ESWL、前立腺生検を含む）	703	851
全身麻酔	261	337
脊椎麻酔	66	47
副腎の手術		
腹腔鏡下副腎摘除術	3	3
腎・尿管の手術		
腎悪性腫瘍手術（ロボット補助下）	2	1
（腹腔鏡下）	0	1
腎部分切除術（ロボット補助下）	7	2
（腹腔鏡下）	0	0
腎尿管全摘術（後腹膜鏡補助下）	1	4
（ロボット補助下）	5	2
体外衝撃波結石碎石術（ESWL）	69	87
経尿道的結石碎石術（TUL）	111	130
膀胱の手術		
膀胱全摘術（ロボット補助下）	1	4
（腹腔鏡下）	4	2
経尿道的膀胱腫瘍切除術	67	64
尿路変更術		
回腸利用代用膀胱(Studer変法)	0	0
回腸導管	1	2
尿管皮膚瘻	4	2
前立腺の手術		
前立腺全摘除術（ロボット補助下）	33	40
経尿道的前立腺レーザー切除術（HoLEP）	23	49
前立腺生検	90	104
陰嚢内容の手術		
高位精巣摘除術	1	2
骨盤内臓器脱の手術		
仙骨脛固定術（ロボット補助下）	27	16
（腹腔鏡下）	1	0

V 学会発表

「絞扼性尿道脱を併発した子宮脱の1例」

倉繁拓志、宗田大二郎、平田武志、笹岡丈人、早田俊司

第17回日本骨盤臓器脱手術学会（2024.3.16／鹿児島市）

「副腎原発Adenomatoid tumorの一例」

松島萌希、倉繁拓志、平田武志、宗田大二郎

第139回日本泌尿器科学会山陰地方会（2024.6.22／米子市）

「当院におけるホルミウムレーザー前立腺核出術（HoLEP）10年後の排尿状態の検討」

倉繁拓志、宗田大二郎、松島萌希、平田武志

第38回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会（2024.11.29／千葉市）

「比較的急な経過をたどった骨盤臓器脱の1例」

倉繁拓志、宗田大二郎、松島萌希、平田武志

第140回日本泌尿器科学会山陰地方会（2024.12.14／出雲市）

「左精索原発の脱分化型脂肪肉腫の1例」

宗田大二郎、松島萌希、平田武志、倉繁拓志、早田俊司

第341回日本泌尿器科学会岡山地方会（2024.12.14／岡山市）

放 射 線 科

副院長：橋本 政幸

I 人事

放射線科では2名の医師により各種画像診断、インターベンショナルラジオロジー（以下IVR）、放射線治療を担当しています。そのほか、ドック胸部X線読影の他、脳ドック、膝ドック、PET/CT検診などの健診業務も担当しています。

II 診療実績

2024年4月1日から2025年3月31日の間に作成した診断レポートは、胸部X線4,140件、マンモグラフィ902件、CT 10,162件、MRI 3,353件、核医学検査 186件、PET/CT 280件、放射線治療 新規シミュレーション 45件（放射線治療は2024年12月で終了しました）、IVR 140件です。2025年3月よりマイクロ波凝固療法ジェネレーターを導入し、肝細胞癌や転移性肝癌の局所療法に活用しています。

外来診療では当科外来患者様の他、院外からの紹介患者様の診察を行っています。当直医の協力を得ながら平日夕方17時から18時まで開業医さんからのCT検査（トワイライトCT）を、また、患者サポートセンターの協力を得ながらパートナーシップCT、MRI（画像診断機器の共同利用）も診断レポート作成し対応しています。

III 学会発表・論文等

<学会発表>

「Refractory Lymphatic Fistula Treated by Percutaneous Transhepatic Lymphography.

A Case Report」

Hashimoto M¹⁾, Matsuki T¹⁾, Mizuno K²⁾, Ohishi M²⁾, Takasugi S³⁾, Yata S³⁾, Fujii S³⁾

1) Department of Radiology, Tottori Municipal Hospital

2) Department of Surgery, Tottori Municipal Hospital

3) Department of Radiology, Tottori University Hospital

第53回日本IVR学会総会（2024.5.23-25／和歌山市）

「鳥取市立病院で施行した気管ステント」

鳥取市立病院 放射線科 橋本政幸、松木 勉

麻酔科 清水貴志

鳥取大学医学部 腫瘍内科 陶山久司

第261回鳥取県東部胸部疾患研究会（2024.7.18／鳥取市）

「絆ノート」

鳥取市立病院 橋本政幸、庄司啓介、懸樋英一、野崎高史、櫻井重久、赤松是伸、杉山華衣、奥谷はるか
智頭病院 足立誠司

第20回日本医療マネジメント学会鳥取支部学術集会（2024.9.7／鳥取市）

「シリコンY型気管ステント留置術の経験」

鳥取市立病院 放射線科 橋本政幸、松木 勉

麻酔科 清水貴志

鳥取大学医学部 腫瘍内科 陶山久司

第37回中国四国IVR研究会（2024.9.28-29／岡山市）

「仰臥位がとれない患者に対する坐位でのPICC挿入」

鳥取市立病院 救急外来 山下千春、石破有香、森脇綾、森本恭代、田村真由

鳥取市立病院 放射線部 西尾貴浩、山下卓哉、藤原史治、田中 誠

鳥取市立病院 放射線科 橋本政幸、松木 勉

<講演>

「市立病院新MRI装置のご紹介とMRIにまつわるエトセトラ」

鳥取市立病院 放射線科 橋本政幸、松木 勉

放射線部 横地延彦、西尾幸一郎、平

野修司、久保知佳、山根 昂、牧野浩文

東部脳卒中等医療連携ネットワーク研究会第46回
合同症例検討会（2024.6.19／鳥取市）

麻 酔 科

診療部総括部長：浅雄 保宏

I 人事

令和6年度は、浅雄保宏、樋口智康、清水貴志、中塚洸輔の4名による体制であった。

II 診療実績

手術件数は総数4,002件（前年3,483件）、麻酔科管理症例1,703件（同1,484件）、うち全身麻酔症例1,532件（1,270件）と、いずれも前年に比べ大幅に増加した。麻酔科管理症例における全身麻酔の割合は90%に達し、長時間手術や併存疾患を有する患者の手術症例が増加していることを示している。

救急車受け入れ体制は、昨年と同様に平日午前中は麻酔科が担当している。令和6年1月から12月までの当院の救急車受け入れ件数は2,701件（前年2,808件）であった。東部圏域全体の救急車受け入れ総数は11,405件（同11,615件）で、当院の受け入れの割合は23.7%（同24.2%）であった。内容としては、高齢者の体調不良や四肢骨折などの軽症・中等症の傷病者が多いのが特徴である。

救急救命士の研修は、就業前研修6名、ビデオ喉頭鏡による挿管実習4名、硬性喉頭鏡による挿管実習2名を受け入れ、いずれも予定通り実施した。

III 学会発表・論文等

<学会発表>

なし

<誌上発表>

なし

<院内の講習会、講演会の講師派遣>

- ・新人オリエンテーション「医療倫理の話」浅雄、2024.04.01
- ・モーニングレクチャー「酸素運搬と全身への影響」中塚、2024/08/22
- ・モーニングレクチャー「敗血症の初期治療」清水、2024/12/26

<その他>

- ・鳥取東部ICLSコース（鳥取市）
第58回（2024/06/02開催）インストラクター：浅雄
第59回（2024/07/21開催）インストラクター：浅雄

第61回（2024/11/17開催）インストラクター：浅雄

- ・鳥取東部エマルゴ訓練（2025/02/02開催）ファシリテーター：浅雄
- ・第14回院内ICLSコース（2024/08/18開催）コースディレクター：浅雄 インストラクター：清水
- ・第2回ま と ば 指 導 者 養 成 ワ ー ク シ ョ ッ プ（2024/10/12開催）コースディレクター：浅雄

歯

科

医長：青柳 浩明

I 人事

医師

常勤歯科医師1名（青柳浩明）が勤務しています。

看護師

配属中止となりました。

歯科衛生士

常勤歯科衛生士は加藤真由美、塩聡美、前田（柿ヶ原）奈々の3名が勤務しています。

II 診療実績

歯科は、院内の医科入院患者への口腔内の管理及び食事の支援（摂食支援）を通じて栄養状態や全身状態の維持・改善を目的とした診療を行っています。当院の医科入院患者および医科外来患者を診察しています。外来診察、病棟への回診を行っています。

全身状態が安定している患者に対しては、歯科医師会所属の歯科医師と共に継続的な管理ができるように連携をしています。通院が困難な患者・地域住民に対しては、かかりつけ訪問歯科医院からの訪問歯科診療が必要です。当院入院患者、外来受診患者のみならず、地域の本人・家族やケアマネージャーから相談のあった場合に、鳥取県東部歯科医師会の在宅医療連携推進室の制度の活用を勧めることによって、かかりつけ訪問歯科を持つことへとつなげています。また、医科の外来患者に対する外来診察を主体とせず、当院入院中の患者の全身状態や治療内容によって紹介を受け診察をしています。

外来の延べ患者数7,230人（1日あたり延べ患者数30人、1日あたり初診患者数5人）でした。

高齢者総合評価の資格を有している歯科医師による入院高齢者の総合評価の件数は、1,413件でした。

退院や転院先に継続的な口腔管理をしていただくために、担当ケアマネージャーや転院先への情報提供の件数は、783件でした。

医科主治医から紹介して頂いていた患者に対して主に以下を行なっています。

- ・当院医科のがん化学療法患者
- ・手術前の周術期口腔機能管理が必要な患者
- ・Bisphosphonate製剤等の薬剤関連顎骨壊死の予防処置が必要な患者

- ・口腔内感染評価が必要な患者
- ・口腔衛生管理および摂食支援を要する入院患者
- ・外来受診が可能だが摂食支援を要する患者

また、う蝕や歯周病等の一般歯科診療を主体とした治療を継続して受ける必要のある患者に対しては、かかりつけ歯科への紹介をしています。しかし、歩行が困難となっている要介護状態の方は、訪問歯科診療が必要であるため、口腔保健連携（鳥取県東部歯科医師会の制度への申し込みを家族が行う）を勧め、歯と義歯の治療や口腔衛生の指導を在宅や施設で専門的に受けることの重要性を伝えています。外来通院は可能であるが、痰の増量やムセの出現など食事で困っている方へは生活支援外来を言語聴覚士、歯科衛生士とともに取り組んでいます。

III 院内保健活動

<口腔ケア保健活動（全病棟）>

毎日13時から各病棟（月曜日：2階東病棟、火曜日：3階東病棟、水曜日：5階東病棟、木曜日：4回東病棟・6階西病棟、金曜日：4階西病棟・6階東病棟）の看護師を対象に口腔ケアを含めた口腔内管理が困難な患者の相談を受け、助言や提案を行った。歯科治療が必要な患者の場合は、医師主治医からの紹介を勧め、歯科治療による口腔内管理に繋げている。

<誤嚥性肺炎予防のための家族および施設者指導（パンフレット指導）>

退院後、誤嚥性肺炎予防や誤嚥性肺炎を繰り返さない目的で自宅退院時の家族指導や施設退院時の施設者へパンフレットを用いて歯科衛生士と言語聴覚士が指導している。

IV 院外活動

- ・湖山地区ブロック研修会、鳥取市、2024年4月7日
- ・社会福祉法人鳥取福祉会養護老人ホーム鳥取市なごみ苑職員対象研修、鳥取市、2024年8月23日